

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 21日から22日にかけて、本州南岸付近を前線を伴った低気圧が進む。
- 23日は、低気圧が発達しながらオホーツク海を進み、前線が日本の南から東シナ海にのびる。また、高気圧が日本海へ移動する。
- 24日は、高気圧は日本の東へ移動し、前線上の低気圧が本州南岸付近を進む。
- 25日は、黄海の高気圧が日本海に張り出し、前線が日本の南から東シナ海にのびる。

<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 21日は、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込むため、西日本太平洋側を中心に大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

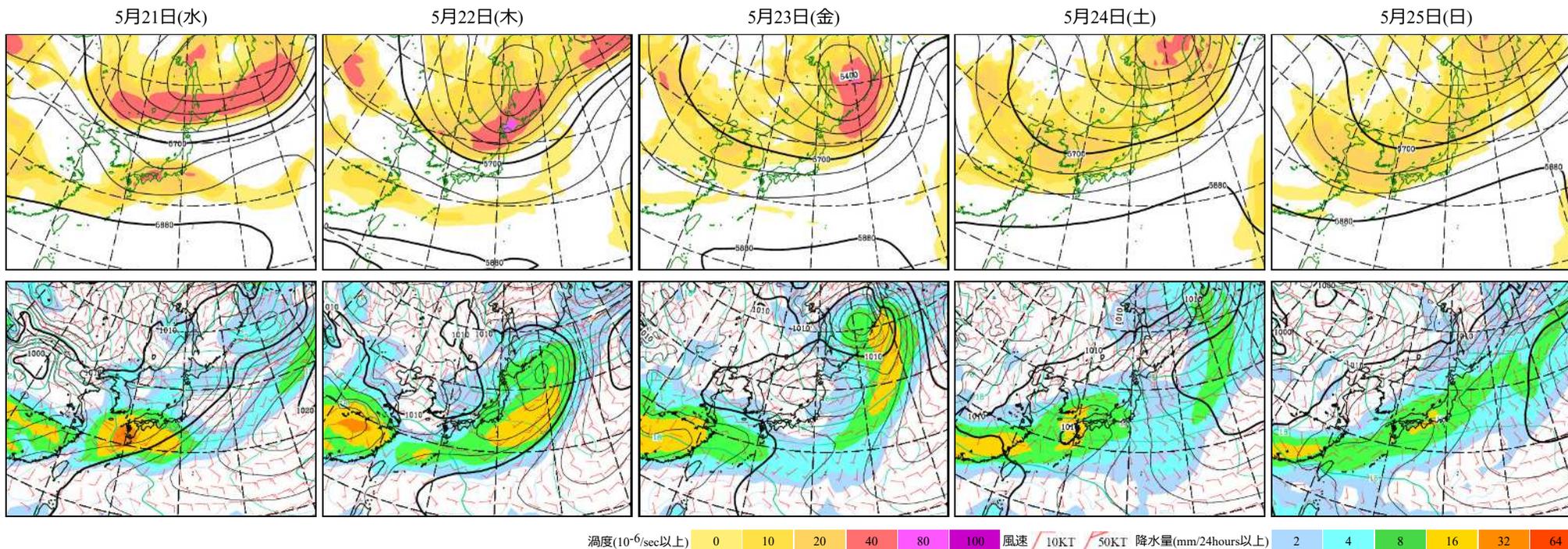
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

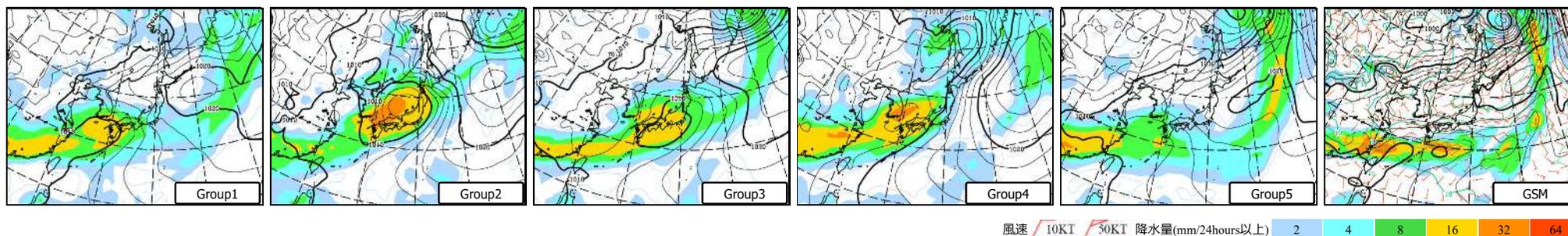


- 北日本は、雲が広がりやすく、21日と22日は雨の降る所がある。
- 東日本、西日本、沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月24日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、21日に北日本に進むトラフや23日頃にかけてオホーツク海を進む寒冷渦の動きが遅くなった。地上の気圧配置の予想は、22日から23日にかけて低気圧が北海道の東からオホーツク海へ進む予想になった。
- 各モデルともに22日から23日に北日本を通過するトラフの予想に初期値変わりがあるが、モデル間の差は比較的小さい。
- 24日から25日にかけて日本付近にのびる前線の位置にはモデル間の差がある。ENSには、各モデルに近い予想の他、日本海に低気圧を進めるメンバーも含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- FEFE19の24日の降水域については、各モデルの予想を参考に北への広がりとは縮小して考える。